

# 東奥日報

2018年(平成30年)9月21日金曜日(18)

## バス待合所改修 町の特長生かす

### 八工大生が現地調査

五戸

五戸町の地縁団体「銀座」のリノベーション(改修)

振興会(福井義幸会長)が計画しているバス待合所



改修予定のバス待合所(奥)からフィールドワークへ出発する、八戸工業大の学生たち

に協力しようと、八戸工業大の学生らが13日、同町でフィールドワークを実施。改修のアイデアに生かせる町の特長を探索した。

待合所は、同会が所有する旧五戸中央商店会館の1階部分約50平方メートル。中心商店街の一角にあり、約30年間住民に利用されている。

同会は、老朽化が進む待合所を改修し商店街の活性化につなげようと、同町で空き店舗の活用に取り組み町地域おこし協力隊員の平尾渡さん(56)に相談。改修に町外の視点を取り入れるため、同大創生デザイン学科の協力を得ることにした。

この日は、同学科長の高橋史朗教授と宮腰直幸教授、1、2年生10人が同町を訪問。4グループに分かれて町中心部を歩き、商店など興味を持った場所の写真撮影や住民へのインタビューを実施。地元の目では気付きにくい特長や美点を

探した。高橋教授は「地元の方々町の特長を見直すきっかけにもしてほしい」、同科1年の安田文哉さんは「イ

ンタビューでうかがった、栄えていたころの町の姿を取り戻せるよう協力したい」と話していた。この日の成果は同学科で

集約し、まとめた情報は地域住民と共有。来年以降に始まる改修作業で活用するとしている。(斎藤義隆)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」